

平成27年度 学校評価結果報告

宮城県加美農業高等学校 学校評価委員会

1 学校評価の趣旨

- ① 社会の変化に対応し、開かれた学校づくりや特色ある学校づくりを推奨する。
- ② 生徒・保護者の多様化と高度化するニーズに対応した教育を行う。
- ③ 本校自らが教育目標及び教育計画の達成度を点検し評価することで、本校教育活動の改善方法を明らかにする。さらに、評価結果を明らかにすることで保護者及び地域の方々の理解と支持される学校づくり（魅力ある学校づくり）を進める。
- ④ 本校の教育目標達成のための教育活動をより効率的、効果的に行う。
- ⑤ 本校の教育目標達成をめざして、校内組織と教育活動の活性化を図る。

2 学校評価の実施

- ① 調査回数 1回
- ② 調査方法 質問紙法
- ③ 実施日及び対象

ア 教員	平成27年12月11日～18日		31名
イ 教職員	平成27年12月11日～18日		60名
ウ 生徒	平成27年12月4日～18日	全生徒	221名
エ 保護者	平成27年12月4日～21日	全生徒の保護者（世帯数）	211名
オ 評議員	平成27年12月4日～18日		6名

④ 回収状況

	平成27年度	平成26年度
ア 教員	100%	(100 %)
イ 教職員	100%	(100 %)
ウ 生徒	99%	(99 %)
エ 保護者	95%	(99 %)
オ 評議員	100%	(100 %)

⑤ 集 計 学校評価システム SQS

3 調査結果

- ① 自己点検・自己評価 : 別添資料A (教員), B (教職員) による
- ② 外部評価 (生徒) : 別添資料C (生徒) による
- ③ 外部評価 (保護者) : 別添資料D (保護者) による
- ④ 外部評価 (評議員) : 別添資料E (評議員) による

4 まとめ

回収率は、生徒99%、保護者95%、教員・教職員と学校評議員は100%であった。昨年度と比較してみると保護者の回収率は下がっており、保護者の未提出が要因として上げられる。

教員・教職員の結果では、昨年度と比較して教育活動領域「A」と学校運営領域「B」の調査項目の約80%で肯定的割合が減少した。特に「三教場の連携」では肯定的割合が約50%にとどまった。今年度項目に加えた「いじめ問題」、「清掃・教育環境の整備」は肯定的割合が約80%程度であったが、「特別支援教育」は約60%であった。

生徒の評価は肯定的割合が約80%であった。昨年度より17項目で肯定的割合が減少した。「施設設備の整備」については、肯定的割合が10%以上少なくなった。

保護者の評価は肯定的割合が約80%であった。昨年度と比較して「保護者への連絡」は肯定的割合が10%以上増加した。新たに加えた「いじめ問題」は肯定的割合が68%であった。「家庭学習」は昨年度よりも良くなるはなかったが、肯定的割合が50%にはとどいていない状況である。要望事項は昨年度と比較すると7項目で減少している。

学校評議員の評価は「部活動の充実」、「施設・設備」、「PTA活動」、「教育相談」、「開かれた学校づくり」を除いた全項目で肯定的割合が100%であった。しかし「部活動の充実」は半数の方々が否定的な見方をしている。